

平成31年度使用中学校用教科用図書
調査研究資料
(報告書)

道 徳

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

| | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|--------------------|---|-----------------|------|----------|
| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | | 発行者名 |
| 1年 | 2年 | 3年 | 東京書籍 | |
| 道徳721 新しい道徳1 | 道徳821 新しい道徳2 | 道徳921 新しい道徳3 | | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA21, B21, C42, D21の教材で構成されている。 ・全学年において、各視点の教材数が、A7, B7, C14, D7で統一されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、[生命の尊さ]の教材が全学年とも三つずつ取り上げられており、特に重点化されている。 ・いじめの問題については、漫画や短い文章、絵などを用いた資料を用いたり、立場の異なる視点で考えさせる資料を掲載したりすることで、内容の理解を促すとともに、見方や考え方が深まるよう、工夫されている。 | | | |
| 2 程度・選択・ 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材を通して、どのようなことを考えるのか(テーマ)を生徒に投げかける表現で示している。 ・教材の内容に関連するマンガの一部がテーマの下に掲載されている。また、テーマの脇に導入の際に生徒に問いかけるとよい言葉も掲載されており、生徒の興味・関心をひきやすい。 ・「つぶやき」欄に生徒が考えたこと・感じたことを簡単にメモできるようになっている。 ・問題解決的な学習(2時間扱い)の教材が、各学年1カ所入っている。活発な話し合い活動にもつなげられる。 ・挿絵や写真がシンプル、仰々しくない。・教科書の大きさが横版。 | | | |
| 3 組織・配列・ 分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の教科書が、オリエンテーション・本編・付録の3つで構成されている。オリエンテーションで道徳授業の基本的な流れや、話し合い活動のやり方について学習するため、本編にスムーズに入っていくことができる。 ・学習指導要領の内容を漏れなく扱い、学校行事の時期なども考慮して配列されている。 | | | |
| 4 本書の特徴点 について | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒2人と先生、案内役のキャラクターを要所に配置し、学習の流れを案内するとともに、興味・関心を引き出している。 ・難しい表現はさげたり、マンガ教材を取り上げたり、生徒にとって親しみやすい教材になるよう配慮されている。 ・挿絵やレイアウトが工夫され、生徒を引き込む工夫がされている。 ・各教材に「つぶやき」コーナーを設置し、生徒が考えたことや思ったことを自由に書き込んで、話し合いの際の材料として整理できるようになっている。 ・巻末に切り取り式の自己評価用紙を用意し、学期ごとに生徒が自己評価を行い、提出できるよう配慮してある。 | | | |

| | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|--------------------------|---|--------------------------|------|----------|
| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | | 発行者名 |
| 1年 | 2年 | 3年 | 学校図書 | |
| 道徳722 輝け未来 中学校道徳1年 | 道徳822 輝け未来 中学校道徳2年 | 道徳922 輝け未来 中学校道徳3年 | | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA21, B18, C48, D18の教材で構成されている。 ・全学年において、各視点の教材数が、A7, B6, C16, D6で統一されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、[自主, 自立, 自由と責任]、[節度, 節制]、[思いやり, 感謝]、[友情, 信頼]、[生命の尊さ]、[よりよく生きる喜び]の教材が全学年とも二つずつ取り上げられており、重点化が図られている。 ・[節度, 節制]では、3年間を通して自然災害を取り上げたり、[自主, 自立, 自由と責任]では、インターネットでの言葉のやり取りを取り上げたりするなど、多彩な教材で現代的な課題に迫れるよう工夫されている。 | | | |
| 2 程度・選択・ 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・大きさが横版 ・挿絵、写真がシンプル。 ・各教材のねらう内容だけでなく、深く考えてもらいたい重要な現代的課題などを10のポイントマークで示してある。 ・「心の扉」は各教材と相互補充の関係にあり、道徳的価値をより広く、深く考えさせることにつながっている。 ・「学びに向かうために」では、友人と意見交換しやすいよう、問題が明確に提起されており、活発な話し合い活動につながるようになっている。 | | | |
| 3 組織・配列・ 分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも35教材掲載されており、年間の授業時数分が確保されている。 ・年間を3つの学期に区切った構成となっており、どの期間においても4つの視点がそれぞれバランス良く学ぶことができるような配列となっている。 | | | |
| 4 本書の特徴点 について | <ul style="list-style-type: none"> ・大切にしたい4つ（命、自然、人・社会、世界・文化）のつながりを念頭に、「何を、どのように学ぶか」が明らかになっている。 ・発問は学習を焦点化するとともに、基本（課題に注目する）→中心→後段の流れをわかりやすく示している。 ・言語活動（意見交換・疑似体験等）の場合は、それがわかるように示している。 ・カラーユニバーサル観点から、色使いやマーク類などの使い方への配慮が顕著である。 | | | |

| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|----------------------------|--|----------------------------|---------|----------|
| 1年 | 2年 | 3年 | 発 行 者 名 | |
| 道徳723 中学道徳1 とびだそう未来へ | 道徳823 中学道徳2 とびだそう未来へ | 道徳923 中学道徳3 とびだそう未来へ | 教育出版 | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA20, B20, C44, D21の教材で構成されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、視点Cに関しては、1年12に対し、2, 3年では「順法精神、公德心」、[国際理解、国際貢献]、[社会参画、公共の精神]が複数回取り上げられることで、16と発達の段階に応じて差がつけられている。 ・写真を多用した教材により、自然環境について直感的に理解できるよう配慮されている。また、問題解決的な学習、体験的な学習に適した教材が取り上げられている。 | | | |
| 2 程度・選択・ 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの道しるべ」では、従来通りの副読本に掲載されているような発問例が掲載されている。 ・挿絵が、一番シンプルな感じ。 ・4つの大きな価値項目が色分けで区別されている。 ・学年ごとに、学習に入るまでの学び方、心の持ち方が分かりやすく紹介されている。 ・補充教材が入っていて、入れ替え可能になっている。 ・資料名下のⅤの一言コメント→この授業で何を考えていくのか意識作りができる。 ・やってみよう 体験的な活動教材、授業の中で無理なく取り入れられる。 | | | |
| 3 組織・配列・ 分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・他教科や特別活動などの実施学年や学習時期を考慮した教材配列となっている。 ・1教材1時間での扱いができるように、35教材が掲載されている。 ・学年の発達段階に即して、1年では「A：自分自身に関すること」の教材を手厚く扱い、学年が上がるにつれて「B：人との関わり」や「C：集団や社会との関わり」の教材を増やしていく構成になっている。 | | | |
| 4 本書の特徴点 について | <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインにより、全ての生徒が見分けやすい色合いとなるよう配慮されている。 ・学びの道しるべを活用して、多様な学びの展開が図られ、道徳的諸価値についての理解を深められる。 ・1学年前半部の教材本文は、大きい文字を使用しており、読むことへの抵抗を少なくする配慮がされている。 ・いじめについてスパイラルに学習できる。 ・コラムなどは極力つけずに、学習内容を焦点化している。 ・学習上支援が必要な生徒にとっても紙面全体が読みやすくわかりやすい。 | | | |

| | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|---------------------------------|--|---------------------------------|------|----------|
| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | | 発行者名 |
| 1年 | 2年 | 3年 | 光村図書 | |
| 道徳724 中学校道徳1 きみがいちばんひかるとき | 道徳824 中学校道徳2 きみがいちばんひかるとき | 道徳924 中学校道徳3 きみがいちばんひかるとき | | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA26, B21, C37, D21の教材で構成されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、内容項目「生命の尊さ」に関しては、全学年とも三つの教材が用意されており、特に重点化が図られている。 ・全学年で、「いじめ問題」、「情報モラル」、「共生」、「社会参画」、「環境」、「国際理解」といった、現代的な課題が幅広く取り上げられている。また、それぞれに、「コラム」として補助資料が添えられ、理解が深まるよう配慮されている。 | | | |
| 2 程度・選択・ 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた挿絵で見やすい。 ・主題名が資料に明確に明記されている。 ・目次に「シーズン1～4」として何について学ぶのか、分かりやすく記されている。 ・「学びのテーマ」として、資料について考える視点が、また、その中の「つなげよう」では、現在の自分と照らし合わせたり、これからの自分について考えさせたりする問いが掲載されている。 | | | |
| 3 組織・配列・ 分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の実態と、生徒の1年間の成長を考慮して、年間を4つのシーズン（まとめり）に分けて構成している。 ・教材数は、1時間での扱いが可能な33教材と、複数時間で扱う想定1教材、補充教材としての2教材の36教材が配されている。 ・全ての学年に「命の尊さ」をテーマとした教材が3つずつ位置づけられており、「命」の大切さを考え、自らを大切にすることを意図した編集がなされている。 | | | |
| 4 本書の特徴点 について | <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を4つの学習のまとめりに分けることにより、時期にあった内容項目を重点的に配置するよう工夫されている。 ・「生命の尊さ」については特に力点が置かれている。 ・教材末のてびきには、授業で学んだことから感じたことや考えたことを書き留められる「わたしの気づき」が設けられていて、学んだことを振り返り、自身の変容を実感するのに効果的である。 ・巻末にはシーズンごとの記録を残す「学びの記録」が設けられていて、長期的に生徒の成長を評価するために有効に活用できる。 | | | |

| | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|----------------------|---|----------------------|--------|----------|
| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | | 発行者名 |
| 1年 | 2年 | 3年 | 日本文教出版 | |
| 道徳725 中学道徳あすを生きる1 | 道徳825 中学道徳あすを生きる2 | 道徳925 中学道徳あすを生きる3 | | |
| 道徳726 中学道徳あすを生きる1 | 道徳826 中学道徳あすを生きる2 | 道徳926 中学道徳あすを生きる3 | | |
| 道徳ノート | 道徳ノート | 道徳ノート | | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA21, B18, C45, D21の教材で構成されている。 ・全学年において、各視点の教材数が、A7, B6, C15, D7で統一されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、内容項目【生命の尊さ】に関しては、全学年とも三つの教材が用意されており、特に重点化が図られている。 ・いじめの問題について、A, B, Cそれぞれの視点において、様々な内容の教材が取り上げられ、多面的、多角的に考えられるよう工夫されている。 | | | |
| 2 程度・選択・ 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・主題名が明確に記されている。 ・リアルな挿絵や写真が多く、場面を捉えやすい。また、生徒の興味・関心をひきやすい。 ・「プラットフォーム」は、その資料（学習）に関連づけるページになっている。 ・道徳ノート「考えてみよう」では、中心発問に対する自分の考え、また友人の意見を記入する欄があり、話し合い活動がしやすい。何について考えればよいか分かりやすい。多面的・多角的に考える状況に自然となる。 ・ノート「自分に+1」では、実生活と結びつけて自分のこれからについて考え記入させる欄があり発展的になっている。 | | | |
| 3 組織・配列・ 分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容項目が過不足なくおさえられた教材となっており、重点項目には複数の教材が掲載されている。 ・生徒の発達の段階に即して道徳性を育成するために、各学年にテーマを設定している。1学年・・・新しい自分と「であう」 2学年・・・人との関係を「みつめる」 3学年・・・よりよい人生を「ひらく」。 | | | |
| 4 本書の特長点 について | <ul style="list-style-type: none"> ・無理なく活用できそうな道徳ノートがあり、進め方がわかりやすい。生徒の変化・成長を見とる手がかりとなり、評価に活用できる。 ・「問題解決的な学習」や「体験的な学習」に適した教材には、参考例として「学習の進め方」を設け、授業の展開をイメージしやすい。 ・道徳ノートには保護者記入欄も用意されており、家庭との連携を大切にしている。 | | | |

| | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|----------------------------|--|----------------------------|-----|----------|
| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | | 発行者名 |
| 1年 | 2年 | 3年 | 学研 | |
| 道徳727 中学生の道徳 明日への扉1年 | 道徳827 中学生の道徳 明日への扉2年 | 道徳927 中学生の道徳 明日への扉3年 | | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA24, B22, C37, D22の教材で構成されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、内容項目「生命の尊さ」に関しては、全学年とも三つの教材が用意されており、特に重点化が図られている。 ・「生命の尊さ」が、他の内容項目の教材とも関連付けられており、様々な視点や観点から理解が深まるように工夫されている。 | | | |
| 2 程度・選択・ 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・大きさがA4縦版 ・資料名のところに主題名をあえて表示していない。生徒に特定の価値を押しつけることなく、自ら問題意識をもつようになっている。従来のつくり。 ・特設ページである「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」で、多様な指導過程、学びの展開を支援している。 ・「いのちの教育」を全学年の重要テーマにしている。 ・ユニット教材として、1つのテーマに関する関連教材を取り入れている。 | | | |
| 3 組織・配列・ 分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容項目がバランス良く配置されている。 ・情報社会における生き方を考える、情報モラルに関する資料が全ての学年に入っている。 ・巻頭に自分を見詰めるページ、巻末に一年間の学びを振り返るページがあり、一冊全体で一年間の自分の成長を感じることができる。 | | | |
| 4 本書の特徴点 について | <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインにより、全ての生徒が見分けやすい色合いとなるよう配慮されている。 ・3種類の特設ページを設け、多様な学びの展開が図れる。 ・A4版の大きさで、活字が大きく見やすい書体を使用している。写真や挿絵も生徒の関心を引くものとなっている。 ・主題を本文中に記載しないことで、特定の価値観にとらわれることのない展開になるよう工夫されている。 ・1冊全体で1年間の自分の成長を感じられる構成になっている。 ・「いのちの教育」を全学年の重点テーマにしている。 | | | |

| | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|---|--|---|-------------|----------|
| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | | 発行者名 |
| 1年 | 2年 | 3年 | | |
| 道徳728 中学生の道徳 自分を見つめる1 道徳729 中学生の道徳ノート 自分を見つめる1 | 道徳828 中学生の道徳 自分を考える2 道徳829 中学生の道徳ノート 自分を考える2 | 道徳928 中学生の道徳 自分をのばす3 道徳929 中学生の道徳ノート 自分をのばす3 | 廣済堂 あかつき | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA24, B21, C36, D24の教材で構成されている。 ・全学年において、各視点の教材数が、A8, B7, C12, D8で統一されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、[自主, 自立, 自由と責任]、[思いやり, 感謝]、[生命の尊重]、[よりよく生きる喜び]の四つの項目においては全学年三つの教材が取り上げられ、特に重点化されている。 ・著名人やスポーツ選手などの生き方から学ぶ教材が多く取り上げられている。 | | | |
| 2 程度・選択・取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えに触れられるよう、また、対話的な学習が活発に展開されるよう「考える・話し合う」における問いに工夫がある。 ・「学習のてがかり」の黄色の帯から授業者にも何をねらいとした授業を行えばいいのか分かりやすい。・ノートには「心に残った授業」など書き込む欄あり。 | | | |
| 3 組織・配列・分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の尾発達段階に配慮しながら、各教科の学習内容や他の教育活動などとの時期的・内容的関連を考慮した配列となっている。 ・オリエンテーションで活用できるよう、冒頭に道徳科の学習がどのようなものなのかイメージしやすくなる資料を入れている。 ・35の教材に加え、現代社会の課題でもある「情報モラル」と「持続可能な社会」に関する2つの付録が3学年ともある。 | | | |
| 4 本書の特徴点について | <ul style="list-style-type: none"> ・生命尊重を最重点項目と位置付け、内容項目「生命の尊さ」、「自主、自律、自由と責任」、「思いやり、感謝」「よりよく生きる喜び」が全学年重点項目になっており、3時間、3教材掲載されている。 ・本冊と「道徳ノート」の2冊を併用することで、道徳科の目標の達成に資するような構成になっている。 ・巻末の「心のしおり」には、教材別・内容項目別に学習の自己評価や振り返りができるチェック欄がある。 | | | |

平成31年度使用 (中 学 校) 教科用図書調査研究報告書

| | | | 種 目 | 特別の教科 道徳 |
|-----------------------------|---|------------------------------|-------|----------|
| 教科用図書の記号・番号・名称 | | | | 発行者名 |
| 1年 | 2年 | 3年 | 日本教科書 | |
| 道徳730 道徳 中学校1 生き方から学ぶ | 道徳830 道徳 中学校2 生き方を見つめる | 道徳930 道徳 中学校3 生き方を創造する | | |
| 観 点 | 調 査 の 結 果 | | | |
| 1 内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA20, B22, C47, D18の教材で構成されている。 ・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、[友情, 信頼]の教材が全学年三つずつ取り上げられ、重点化が図られている。 ・現場の教師が執筆したオリジナル教材や、先人・著名人の生き方から学ぶ人物教材、また地域教材など、多彩な教材が取り上げられている。 | | | |
| 2 程度・選択・取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・目次が非常に見やすい、シンプルに4つの価値項目に区別されている。内容項目順に配置されている。 ・「考え話し合ってみよう、そして深めよう」には、生徒の思考を揺さぶるといが掲載されている。今までの副読本パターン。 ・学年間でつながる教材が掲載「リョウとマキ」 ・挿絵、写真が非常にシンプル。インパクトは少ない。 | | | |
| 3 組織・配列・分量について | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容項目順に教材が配置されており、A, B, C, Dのどれに関するものかが分かりやすい。 ・1年間計画を検討する際に教科書に掲載している順番にしばられることなく、各地域・学校の特徴等に応じて自由に教材を生かすことができる。 | | | |
| 4 本書の特徴点について | <ul style="list-style-type: none"> ・生命尊重への学びをより深める教材が多くある。 ・「正義」「寛容」「人権」「人間愛」などのさまざまな教材の主題で「いじめを許さない心」の育成を目指している。 | | | |